

水道スマートメーター実証実験

検針業務の効率化期待

奄美9市町村とNTTが協定

【鹿児島総局】奄美群島の9市町村とNTT西日本鹿児島支店、NTTテレコン九州支店は8日、水道の検針業務を効率化する「水道スマートメーター」の導入に向けた実証実験を行う協定を結んだ。同日、鹿児島市のホテルで調印式があり、各自治体の首長らが出席。水道事業などのインフラ整備費の増加や検針業務を担う人材不足が課題となる中、事業の省力化や効率化に期待した。県内でスマートメーターの実証実験を行うは初めてで、NTT西日本などによると、複数

の自治体が共同で実験に参加するのは全国的にも珍しいという。

水道スマートメーターは、通信端末をデジタル式水道メーターに接続することで、水道使用量を自動的に記録、集中監視を行うシステム。従来、人が行っている検針業務の効率化のほか、漏水などの早期発見による住民サービスの向上なども期待できるといふ。

実証実験に参加するのは奄美市、大和村、宇検村、瀬戸内町、龍郷町、喜界町、和泊町、知名町、与論町の9市町村。期間は来年

5月31日までで、メーターなどの機器設置の準備が整った自治体から順次開始する。

実証実験を行うのは9市町村の計58戸の住宅などで、各自治体ごとに5〜14戸にスマートメーターを設置、データを収集する。

瀬戸内町の鎌田愛人町長は「集落によっては検針が困難な住宅もあり、検針業務をお願いしている人も高齢化し、新たな担い手確保もなかなか難しい。業務の効率化に期待したい」と話した。

NTT西日本鹿児島支店

の瓜生昌史支店長は「全国的に人口が減少、人材不足による住民サービスの低下なども懸念される。通信技術を活用した新たなサービスの形を自治体の皆さんと一緒に生み出せたら」と話した。



水道スマートメーター実証実験の協定を締結した奄美群島9市町村の首長とNTT西日本鹿児島支店、NTTテレコン九州支店の代表ら。8日、鹿児島市